



WHO の警告！

世界の各地で麻しん患者が増加
免疫がなければ 100%発病します！



MR(麻しん・風しん)ワクチン接種 2 回お済ですか？

世界各地で麻しんの感染が拡大しています。WHOは、ロシアや中央アジアを含む欧州地域で2023年の感染者数は、2022年の60倍以上に増加したと発表しています。コロナ禍で麻しんワクチンを接種する機会が失われ、ワクチン接種率が数%低下しただけでも感染拡大を起こす可能性のある極めて強い感染力を持ちます。今後、注意が必要な感染症です。

■ 麻しん

麻しんは、空気感染する感染力の非常に強い病気で、マスクや手洗いで感染防止することが出来ません。ワクチン接種が最も有効な感染予防方法です。罹患すると合併症に肺炎、中耳炎、ウイルス性脳炎、亜急性硬化性全脳炎(麻しんに罹患後、数年から10年程経過して発症する脳炎で知能低下、けいれんなどが現れ、数年の内に死亡する)などがあります。ワクチン未接種の乳幼児や、成人が麻しんに罹患すると重症化することが多く、注意が必要です。また麻しんに罹患すると数か月から数年免疫が抑制され「免疫記憶喪失」という状態になり今まで獲得した免疫の効果が期待できず、感染症にかかりやすくなります。ワクチン接種でこの「免疫記憶喪失」も防ぐことができます。

麻しんワクチンを過去に1回受けていて、抗体価が低下した人が麻しんに罹患すると、軽症で典型的な麻しんの症状が出ない人がいます。しかし、麻しんウイルスを他者に感染させる危険性は同じです。

■ 症状

- 10~12日の潜伏期間の後38℃前後の発熱やせきで始まり、結膜炎症状が出た後、高熱と共に頸部、顔から発疹が出現し全身に広がります。
- 麻しんの主症状は発熱が約1週間続き、症状も強いので、合併症がなくても入院を要することが少なくなく、回復までには時間のかかる重篤な病気で、特効薬はなく対症療法しかありません。

※麻しんを疑う症状がある場合の受診にあたっては、必ず電話にて医療機関へご連絡ください。

■ 年代別麻しんワクチン接種状況

生年月日	2024年時点の年齢	麻しんワクチン接種状況
1972年以前	47歳以上	ワクチン未接種世代 自然感染により免疫を十分に持っている人以外は合計2回のワクチン接種が必要
1972/10/1~1990/4/1	34歳~47歳	1回しか接種していない世代 免疫を十分に持っていない可能性が高く合計2回となるよう追加の接種が必要
1990/4/2~2000/4/1	34歳~24歳	特例措置対象者の世代 2回目のワクチン接種対象となったが、接種率が低く合計2回の接種を受けていなければ追加接種必要
2000年4/2以降	24歳以下	定期接種として2回受けている世代 2回の定期接種を受けていなければ追加接種必要

分からないこと、不安なことがあれば保健室までご相談ください。

Mail:hoken@andrew.ac.jp Tel:0725-92-7614

